

## 造林事業の省力化に向けた新たな挑戦

中部森林管理局 愛知森林管理事務所 一般職員 埴岡 千尋

### 1 課題を取り上げた背景

近年、主伐の増加に伴い造林作業の省力化が課題となっています。そこで、愛知所では令和元年度、造林費用の4割近くを占める地拵と獣害防護柵費用の削減を試みました。

#### (1) 地拵の省略

伐採後の山に残る末木枝条（以下、D材という）は、地拵費用の大幅な増大を招きます。D材を搬出・利用することで、地拵費用は抑えられると期待できます。

#### (2) 獣害防護柵の省略

近年のニホンジカ（以下、シカという）増加に伴い、獣害防護柵の設置も増えています。防護柵は、その設置に多大な費用がかかっているにも関わらず、破損やそれに伴う動物侵入と植栽木被害、さらに不要となった防護柵の撤去等、多くの問題を抱えています。防護柵のみの対策では限界があるため、シカの個体数を適切に管理する方法が最も有効的だと考えられます。

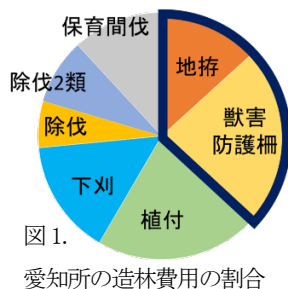
### 2 取組の経過

#### (1) 地拵の省略

D材の搬出にあたり、当所が調整役となり、関係者によるD材有効利用検討会等を行いました。また、今後の課題と解決策を考察しました。

#### (2) 獣害防護柵の省略

造林地の周囲で、植付までにシカを集中的に捕獲し、植付後の食害状況を調査しました。また、皆伐前からセンサーカメラでシカの生息状況を把握し、捕獲による生息数の変化を観察しました。令和2年度以降はワナを撤去し、継続的にシカの生息状況と、被害の状況について調査をしています。



### 3 実行結果

#### (1) 地拵の省略

D材を搬出した箇所では、従来の地拵費用の7割近くを削減することができました。一方、D材の搬出可否は、D材の運搬費用や生産現場での置き場の確保、整理の費用等の問題と大きく関わっており、条件が整った場所ではしか搬出できませんでした。

#### (2) 獣害防護柵の省略

今回の検証では、造林地の周囲で、植付までにシカを集中的に捕獲したことで、シカに警戒心を持たせることができ、かつ局所的に生息数を減らすことができたので、食害を防ぐことができました。（令和2年8月末時点）その結果、防護柵費用の全額を削減できました。

### 4 考察

#### (1) 地拵の省略

現在は条件の整った箇所ではしかD材搬出はできませんが、今後は地拵省略で削減できる費用で、D材の運搬や整理等の費用を負担できれば、その範囲はさらに広がり、結果として地拵費用の削減につながると考えられます。

#### (2) 獣害防護柵の省略

現在行っている、ワナ撤去後のシカ生息状況調査と被害調査から、一度局所的に減ったシカが再び増加するまでの期間と、被害が顕著になるまでの期間がわかるようになります。この期間がわかれば、シカを集中的に捕獲する期間と、捕獲しない期間を作ることができ、さらに効率的に捕獲・植栽木防護を行えるようになると考えられます。

以上2点のように、今後も、新たな造林事業の省力化を打ち出していく必要があります。

